

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-17	実施計画番号	22	事業開始年度	平成21年度
事務事業名	公共交通の維持・確保			事業終了年度	継続中
担当課名	政策財政課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	道路運送法等		関連事務事業		
背景や経緯等	要件を満たす路線バスに対し補助を行うとともに、運休地域における予約式乗合タクシーの運行を継続する。				
事務事業の目的	移動手段として必要不可欠である路線バス等の公共交通を維持・確保する。				
実施状況	地域間幹線系統4路線、域内生活交道路線8路線、赤伏・万内線の計13路線のバス運行補助を実績に応じて行う予定。予約式乗合タクシーは平成21年度実証運行、平成22年度から現在まで運行を継続しており、平成24年度以降利用者数は減少傾向ではあるものの、地域の足として確実に定着している。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	45	45	45
	人件費(千円)	1,620	1,620	1,620
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		27,495	27,901	39,770

【指標】

活動指標	活動指標名①		予約制乗合タクシーの1日当たり運行便数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	実績値		便/日	7.9	7.3	7.9
	活動指標名②		予約制乗合タクシーの1便当たり利用者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	実績値		人/便	1.9	1.8	1.9
成果指標	成果指標名①		(路線バス)平均乗車密度2.0を下回る補助対象路線数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	実績値	路線	目標値	0	0	0
			実績値	1	1	
			達成度(%)	0%	0%	
	成果指標名②		(乗合タクシー)月当たり利用者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	実績値	人/月	目標値	330	330	330
実績値			299	272		
達成度(%)			91%	82%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">路線バスが廃止となった地域を対象に、地域住民の公共交通手段を確保するため、予約式乗合タクシーを運行しており、市民ニーズは十分にある。また、予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議を補助する仕組みであることから民間との競合はない。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	路線バスが廃止となった地域を対象に、地域住民の公共交通手段を確保するため、予約式乗合タクシーを運行しており、市民ニーズは十分にある。また、予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議を補助する仕組みであることから民間との競合はない。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
路線バスが廃止となった地域を対象に、地域住民の公共交通手段を確保するため、予約式乗合タクシーを運行しており、市民ニーズは十分にある。また、予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議を補助する仕組みであることから民間との競合はない。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">成果指標(月当たり利用者数)は減少傾向にあるが、新規利用登録者もいるため、今後の利用が期待される。運行時間帯や停留所などについては、利用状況や利用者の意見等を参考にしながら、改善する余地がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	成果指標(月当たり利用者数)は減少傾向にあるが、新規利用登録者もいるため、今後の利用が期待される。運行時間帯や停留所などについては、利用状況や利用者の意見等を参考にしながら、改善する余地がある。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	成果指標(月当たり利用者数)は減少傾向にあるが、新規利用登録者もいるため、今後の利用が期待される。運行時間帯や停留所などについては、利用状況や利用者の意見等を参考にしながら、改善する余地がある。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">予約式乗合タクシーの実際の運行状況に応じて運賃収入との差額を委託料として支払う仕組みとしており、可能な限り効率的な運営に取り組んでいる。また、実際の運行に当たっては、ノウハウを持っている市内の民間タクシー事業者に委託している。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	予約式乗合タクシーの実際の運行状況に応じて運賃収入との差額を委託料として支払う仕組みとしており、可能な限り効率的な運営に取り組んでいる。また、実際の運行に当たっては、ノウハウを持っている市内の民間タクシー事業者に委託している。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	予約式乗合タクシーの実際の運行状況に応じて運賃収入との差額を委託料として支払う仕組みとしており、可能な限り効率的な運営に取り組んでいる。また、実際の運行に当たっては、ノウハウを持っている市内の民間タクシー事業者に委託している。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">路線バスが廃止となっている地域の住民を対象に予約式乗合タクシーを運行しており、受益の偏りはない。また、利用者からは従前の路線バス料金に準じた乗車料金を徴収しており、受益者負担は適切である。しかし、今後の消費税率の引上げによっては乗車料金を検討する余地がある。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	路線バスが廃止となっている地域の住民を対象に予約式乗合タクシーを運行しており、受益の偏りはない。また、利用者からは従前の路線バス料金に準じた乗車料金を徴収しており、受益者負担は適切である。しかし、今後の消費税率の引上げによっては乗車料金を検討する余地がある。	
	受益者負担適正化の余地	1 / 4								
路線バスが廃止となっている地域の住民を対象に予約式乗合タクシーを運行しており、受益の偏りはない。また、利用者からは従前の路線バス料金に準じた乗車料金を徴収しており、受益者負担は適切である。しかし、今後の消費税率の引上げによっては乗車料金を検討する余地がある。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1						
現在の適性					16 / 20	改善の余地	4 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

地域住民の交通手段の確保という観点から、持続可能な予約式乗合タクシーの運行を確保する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

利用実績や利用者ニーズを踏まえて、運行形態等の見直しを行うことで、利用者の増加と効率的な事業遂行を図る。